

聞かせて下さい、あなたの人生。

～「聞き書き」というボランティア～

聞いてごらん、子どもの頃の話や、つらかった戦争体験を。
教えてもらおう、生活の知恵や、身につけた技術を。
お願いしよう、孫たちへの伝言を。

するとね、
おじいちゃんや、おばあちゃんの心の扉が開いて、
笑顔を見せて話してくれるのさ。

そのキラキラした話を宝物のように大切に書き、
後世に残しておくのが「聞き書き」さ。

読んでいるうちにね、
耳を傾けると、ほら、聞こえてくるよ。
おじいちゃんの声や、おばあちゃんの歌が。

ほら、見えるでしょ。
おじいちゃんや、おばあちゃんの澄んだ瞳が。

小田 豊二（作家・日本聞き書き学会講師）

「聞き書きボランティア」とは…

人生の先輩であるお年寄りに、どう生きてこられたかを語っていただき、聞き手は、その経験、知識、知恵を後世に伝える橋渡しをします。語り手は、語ることでご自身の人生を振り返り、幸せな出来事や頑張ってきたことを思い出すことで、生き生きとした表情を見せて下さり、自分のしてきたことの意義を見出したり、「まだ、やれることがある」ことに気づいたりします。ボランティアが傾聴することが心のケアにもなります。

聞き手であるボランティアは、語って下さる内容から様々なことを教えられます。自分の生まれる前の社会のこと、先人たちの苦勞、生活の知恵などなど。それは、「お年寄りがひとり亡くなると、地域にひとつ図書館がなくなる」と言われるくらい。お聞きしたことを一冊の本にしてお渡しすることで、ご家族からも喜ばれることがあります。



…私は姉やにおぶさって逃げました。母は逃げる途中で、地面に転がっていた物干し竿を二本拾ったんです。「何かの足しになるだろう」って。

もう何万人って人が上野の山に逃げたんですけど、後年「お父さん、よくあの時に私たちのこと見つけられたわね」って言ったら、「そりゃあ、お前の産着が結わえ付けてあったから、すぐ分かったよ」って。

母は物干し竿を十文字に結わって、私の産着を括りつけて目印にしたんです。そんな風に、ちょっと機転の利くところがあったんですよ。(大正12年生まれの女性の聞き書きより)

- ◆ 「聞き書き」の活動、基本的な手法について、聞き書き作家である小田豊二先生に、体験談を交えてご講義頂きます。
その人らしさが出るように、話し言葉で書いてみる練習問題もやります。小田先生の懇切丁寧な添削付き。爆笑必至の楽しい講座です。

日 時 : 2018年7月13日(金)
18:30 ~ 20:30

会 場 : 東京ボランティア・市民活動センター会議室 B
受講料 : 学生 500 円、一般 1000 円
定 員 : 40名

【JR をご利用の場合】

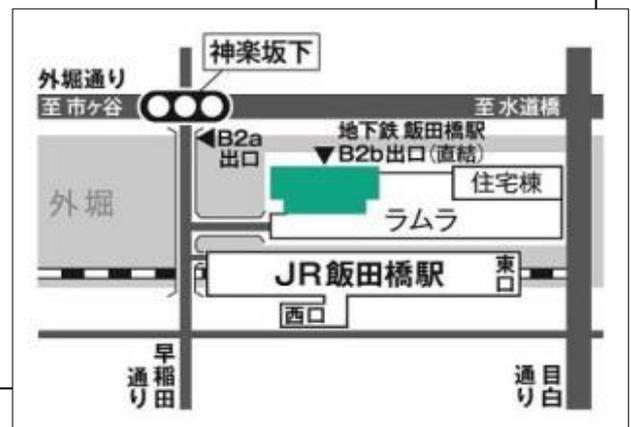
飯田橋駅西口仮駅舎を出たら市ヶ谷方面に進み、交番を右折。

牛込橋を渡り右側に見える茶色のビルがセントラルプラザです。

車いす等をご利用の方は、エレベーターのある東口をご利用ください。

【地下鉄（有楽町線・東西線・南北線・大江戸線）をご利用の場合】

「B2b」出口よりセントラルプラザ 1 階に直結しています。



一人の人間の人生の内実は文庫蔵一つに相当するといふとらえ方に、私は全面的に共感する。だが、せっかくの貴重な文庫蔵が、毎年百万単位で失われていくのが現実の姿だ。これからの日本人に語り伝えるべきものは、実は身近にいる父母や祖父母の人生の記録ではないか。高校生や大学生が「聞き書き」ボランティア活動をするのを奨めたい。

(柳田邦男・文藝春秋巻頭エッセイより抜粋)

お申し込み・お問い合わせ

NPO 法人 白十字在宅ボランティアの会

〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 2-7 ディアコート砂土原 204

TEL/FAX 03-5935-7708 ※担当外出中は留守番電話になっています。

E-Mail volunt-hakujuji@coast.ocn.ne.jp

ホームページ <http://www.hakujuji-net.com/>

※ FAX・メールの場合は、「聞き書き講座申込」と記載の上、氏名・電話番号・職業（または学校名）を記して、上記までお申し込み下さい。